

研究室から

大学はいま

業は年々増加し、また景とする人々の行動や私たちが住んでいる地域では、ごく日常的に外国人を目にします。こうした時代にあつては、外國語を話せばそれで事足りり、と

私はこうした観点から、中国人と日本人の言語行動に関心を持ちます。しかし、別の社会では理由の説明や補償行動こそが求められ、謝罪は口先だけで誠意がないと受け取られます。これはどちらが良い悪いということではなく、各社会それぞれの文化、慣習があり、異文化間では、互いに尊重し理解し合つてい

言語行動からの異文化理解



ては、外國語を話せばそれで事足りり、と行動するか、そして、何をどう話すかということがむしろ重要となりますが、同時に、自分とは異なる文化・社会を背くべきなのです。

社会の実現といった言葉を見聞きすることが多くなっています。実際には海外へ進出する企

取られことがあります。これはどちらが良い悪いということではなく、各社会それぞれの文化、慣習があり、異文化間では、互いに尊重し理解し合つてい

手の言動の真意を理解し、同時に、自らの言動が相手にどのように理解されるかという視点を持つ——そうした「(ひ)近所」付き合いをしていけたらと考えています。